【公式記録】

大会名　宅島建設杯　第20回　長崎県ジュニア・ユースサッカー選手権大会

（ 作成責任者　西津　邦彦 ）

第6日目	決　勝	9月　9日　12時00分	天候	(晴) くもり　雨	無風	競技時間	60分・延長10分	観　衆	約　200　人
会　場	島原市営陸上競技場		状　態	(良) 不良　泥沼	審　判	高月　和彦	五通　元気	金﨑　藍子	松田　謙一

チーム名　キックスFC　地区（大村）　KICKOFF

1 { 0 — 0 / 1 — 0 } 0

チーム名　V・ファーレン長崎　地区（諫早）　KICKOFF

17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	順
																	背番号
																	○×

PK内訳

順	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
背番号																	
○×																	

交代時間	シュート数 延後	延前	後半	前半	学年	選手名	背番号	位置	背番号	選手名	学年	シュート数 前半	後半	延前	延後	交代時間
分					2	糸瀬　圭佑	1	GK	12	山本　祥輝	3					分
分					3	高取　勇次	2	DF	16	境　臣太朗	2					51 分
分					3	井上　碧人	3		11	山崎　蓮	3		1			分
分					3	門田　僚	4		15	村中　祐介	3					分
分					2	馬場　堅伸	19		22	坂本　尚幸	2					分
分					3	吉田　直樹	5	MF	14	池田　久哉	3					分
分					3	時　侑也	8		17	平野　暁大	3					56 分
60 分					2	橋本　雄太	18		18	長坪　優希	3	3				43 分
分				2	2	橋本　力也	20		9	冨永　恭平	2					分
30 分				1	3	二階堂　悦也	10	FW	6	上田　拓弥	3					分
18 分					3	高山　滉大	12		24	津留　卓磨	3					分
分					2	松添　航大	17	交代要員	1	宮本　泰誠	3					分
分					3	石井　涼介	6		2	町田　充宏	3					分
30 分			1		3	山下　誠矢	7		5	畑田　健吾	3					分
分					3	末長　大輝	9		7	野中　魁	2					分
18 分					3	吉村　洸太	11		8	小川　颯	3					分
分					3	水頭　祐貴	13		10	田代　雅稀	3					43 分
分					3	中原　玄人	14		4	坂口　拓生	3					分
分					3	中原　毅人	15		25	松崎　颯太	2		1			51 分
60 分					2	高木　太雅	16		21	大久保　亘輝	2					56 分
			1	3	小　計	4	合　計		5	小　計		3	2			

警告・退場 時間	番号	氏名	内容	延後	延前	後半	前半	チーム合計			前半	後半	延前	延後	警告・退場 時間	番号	氏名	内容
						3	5	8	GK	3	3				4	24	津留　卓磨	距離
						1	2	3	CK	1		1						
						2	4	6	直接FK	5	3	2						
						1	1	2	間接FK	2	1	1						
						1	1	2	(オフサイド)	2	1	1						
									PK									

時間	チーム名	No.	得点者	アシスト	得点経過　記入例：～ドリブル、→ゴロのパス、↑浮球のパス、X混戦、Sシュート、Hヘディング
36	キックス	7	山下　誠矢		8↑7S

戦評者氏名〔　西津　邦彦　（フルネームを記入）　勤務先又は所属【　長崎県サッカー協会　】〕

（前半）

システムはキックスが4－4－2，V・ファーレンが4－3－3。どちらもポゼッションスタイルのチームで，ボールを失わないようにパスをつなぎながら相手ゴールに迫っていく。試合序盤は互角の試合展開であったが，時間が進むにつれて，V・ファーレンがボールを保持する時間が多くなり，相手ゴールに迫るが決定的なチャンスをつくることができなかった。キックスもショートカウンターから何度かチャンスをつくったが，こちらも決定的なチャンスをつくることができなかった。

（後半）

後半開始からキックスは1名選手を交代，V・ファーレンは交代選手なし。前半同様，お互いにパスをつなぎながら相手ゴールを目指す。しかし，どちらのチームも組織的な守備で相手に決定的なチャンスを与えない。後半開始から6分，キックスは一瞬の隙を突いたディフェンスラインへのパスが7番に通る。V・ファーレンGKが前に出ているのを確認し，冷静にゴールへ流し込んで先制点。その後，V・ファーレンは選手交代を行い，攻撃の活性化を図ったが，キックスのしっかりと守備した守備の前に得点ができなかった。一進一退の攻防の末，タイムアップとなりキックスの初優勝が決定。